

令和7年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演事業）
出演希望調書 No.1（共通）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ

分野・種目

※応募する企画の主たる分野・種目を1つ選択してください。

分野・種目については、募集要領4ページを御参照ください。

分野	種目
演劇	人形劇

取り組み（該当する取り組みに○を付してください。）

該当	取り組み
<input type="radio"/>	①障がいのある芸術家が活躍する取り組み
<input type="radio"/>	②字幕や音声ガイダンス等を設置するだけでなく、障がいのある子供たちも主体的に芸術鑑賞・体験ができるよう工夫された取り組み

応募する取り組みが①である場合、芸術家が抱える障がいの種類

聴覚障害

※採択を受けた場合、実施へ向けた調整に当たり、参考とさせていただきます。

応募する区分（該当する区分に○を付してください。）

該当	区分
<input type="radio"/>	◀D区分▶ 公演を中心とする企画
<input type="radio"/>	◀E区分▶ ワークショップを中心とする企画 ※ ワークショップの一環として実演を披露するものを含みます。

実施可能期間 ※原則として令和7年6月2日（月）～令和8年1月30日（金）まで

実施可能期間	×	全期間：令和7年6月2日 ～ 令和8年1月30日	※夏休み、年末年始を除く
		令和7年6月2日 ～ 令和7年7月20日	～
		～	～
連日公演の可否	可	←選択してください。	

実施可能地域 ※実施可能な地域名の前に○を付してください。（複数選択可）

該当	地域	都道府県	都道府県を限定される場合はこちらに御入力ください。
	限定なし		
	北海道	北海道	
○	東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
○	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川	
○	北関東・甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野	
○	北陸	新潟、富山、石川、福井	
○	東海	岐阜、静岡、愛知、三重	
○	近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
○	中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
○	四国	徳島、香川、愛媛、高知	
○	九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
	沖縄	沖縄	

団体の概要

【制作団体について】

ふりがな	こうえきざいだんほうじんげんだいにんぎょうげきせんたー		
制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター		
代表者職/氏名	理事長/塚田千恵美		
制作団体所在地	〒 211-0035		
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体代表電話番号	044-777-2228		
制作団体設立年月	1969	年	4 月
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事：塚田千恵美 業務執行理事：松澤文字 理事：大杉豊、小川信夫、 平野英俊、北条秀衛、 築瀬恵子 監事：桑野雄一郎	理事：7名 評議員：7名 監事：1名 職員：8名	
事務体制：事務（制作専任担当者の有無）		他の業務と兼任	
Webサイト等URL	http://www.puppet.or.jp/		
本事業担当者名	池内剛志	本件連絡先：電話番号	044-777-2228
メールアドレス	ikeuchi@puppet.or.jp		
経理処理等の監査担当の有無		有	
経理責任者名	菅原真弓		

【公演団体について】

ふりがな	でふ・ぱべつとしあたー・ひとみ
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ
代表者職／氏名	代表／榎本トオル
Webサイト等URL	http://www.deaf.puppet.or.jp/

特別支援学校等における活動実績や障がいを持った芸術家の活動を広げる公演等の活動実績

デフ・パペットシアター・ひとみはろう者と聴者が一緒に活動をしている専門人形劇団です。

1980年の立上げ以来、ろう者と聴者、違いを持つ者どうしが互いの感性を活かしあう、新しい人形表現を探求しています。また、耳の聞こえや世代を問わず幅広いお客様に楽しんでもらえる人形劇の創作、および多様なお客様が一堂に会することのできる観劇空間の創出にも取り組んでいます。

①特別支援学校での活動実績

2014年度 6校で公演、ワークショップ
2015年度 14校で公演、ワークショップ
2016年度 4校で公演、ワークショップ
2017年度 16校で公演、ワークショップ
2018年度 15校で公演、ワークショップ
2019年度 13校で公演、ワークショップ
2020年度 1校で公演、ワークショップ
2021年度 4校で公演、ワークショップ
2022年度 10校で公演、ワークショップ
2023年度 8校で公演、ワークショップ
2024年度 10校で公演、ワークショップ（予定）

特別支援学校のなかでも、ろう学校での公演・ワークショップを特に多く行っていますが、そのほかの特別支援学校で知的障害や身体障害を持つ子どもたちを対象とする場合もあります。言語に頼らない人形劇表現の強みを活かし、対象となる子供たちに合わせて柔軟に対応しながら公演やワークショップを実施しています。

②障がいをもったアーティストの活動を広げる公演等の活動実績

40年以上にわたって、ろう者と聴者が一緒に活動をしている劇団です。ここ10年間では、文化庁「巡回公演事業」の委託を受けて、例年10校ほどの学校で公演をしているほか、全国各地の実行委員会が主催する上演もしています。実行委員会の主催公演では約650地域での実績があり、ろう者と聴者の協働による表現の可能性を全国各地で発信しています。

また①でも触れたように、ろうの子供たちに向けた公演やワークショップを広く実施することで、ろう者が聴者と協働しながら表現活動を行うロールモデルのひとつとしても発信を続けています。

令和7年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演事業）
出演希望調書 No.2（D区分）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター					
企画名	ろう者と聴者の人形劇「河の童-かわのわっぱ-」					
主な対象学年 <small>※複数選択は可能ですが企画内容と趣旨が異なるようお願いいたします。</small>	<input type="checkbox"/>	小学校：低学年	<input type="checkbox"/>	小学校：中学年	<input type="checkbox"/>	小学校：高学年
	<input type="checkbox"/>	中学校・中等教育学校（前期課程）				
	<input type="checkbox"/>	特別支援：小学部	<input type="checkbox"/>	特別支援：中学部	<input type="checkbox"/>	特別支援：高等部
児童・生徒の鑑賞・体験可能人数の目安			1回の人数	回数		
ワークショップ	※ 3回まで		30人程度	1		
本公演	※ 1校1回まで		200人程度	まで対応可		
企画の動画等の資料						
URL	https://www.youtube.com/watch?v=sf0SyBu7WMA&t=193s					

本公演について

主な演目	人形劇「河の童-かわのわっぱ-」					
原作／作曲	火野葦平「河童曼陀羅」					
脚本	立山ひろみ					
演出／振付等	演出／立山ひろみ 作曲／佐藤望 人形美術／本川東洋子 振付／向雲太郎					
公演時間 (分)	著作権	<input type="checkbox"/>	制作団体が所有			
		<input checked="" type="checkbox"/>	制作団体以外が所有する事項が含まれる			
85分		<input checked="" type="checkbox"/>	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾の有無			

あらすじ

河童はのんびりくらしています。井戸の中で、こいやげんごろう、かになんかと一緒に、ゆったり、ゆらゆら。そんな河童のことを、にんげんたちはあまり良く思っていないようです。だから河童の方も、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。
あるとき、村に雨が降らなくなりました。
にんげんたちは、それを河童のたたりだと考えて――。
河童とこどもたち、おとなになったにんげんたちをめぐる物語。

演目概要



ろう者の視覚的な感性を多く取り入れた人形劇。2018年の初演以来、全国の学校や会館で親しまれている作品です。

劇中ではほとんど台詞を使わず、一部台詞のある箇所では手話を併用します。その他にも、プロジェクターによる投影や「めぐり」の使用、舞踏やマイムのような身体表現、舞台上での生演奏など、目で見て楽しめる仕掛けをたくさん盛り込みました。

耳のきこえを問わないことはもちろん、説明的な筋立てが苦手な方や、お芝居を通じて非日常的な世界を体感したい方にも、幅広くお楽しみいただけます。

(作品ポスター画像別添)

公演従事予定者の編成
(1公演あたり)

出演者：6名
照明スタッフ：1名
手話通訳者：2名 運搬トラック運転手：1名

公演に当たり必要な会場条件

- ・舞台の設置場所 教室 体育館
 - ・舞台に必要な広さ 間口12m×奥行6m
 - ・電源容量（主幹ブレーカー容量） 20 A
 - ・暗転の要否 要 不要
 - ・その他
- 完全暗転は必須ではありませんが、照明効果を高めるため必要に応じ暗幕を使用します。

会場設営の所要時間
(タイムスケジュール)の目安

前日仕込み	無	会場設営の所要時間		3.5	時間程度	
到着	仕込み (開始・終了)	本公演 (開始・終了)		内休憩	撤去 (開始・終了)	退出
8:00	8:00 11:30	13:00 14:25	0:00	15:00 17:30	18:00	

派遣について

移動方法の制約等
運搬規模 4tトラック1台

ワークショップについて

内容

『あやかし』をつくってみよう／うごかしてみよう



※公演の前日までに1回（90分）。

可能であれば当日にもリハーサルを実施します。

新聞紙や端切れなど柔らかい素材で「あやかし」をつくり操演します。

一般に知られる妖怪のイメージに縛られず、自由に造形します。

創作過程で偶然に生まれた形や動きも取り入れていけば、思いもよらない

「あやかし」が生まれます。本公演中の一場面で、子ども達にそれぞれ

自作の「あやかし」を操演してもらいます。

①メンバー紹介

②アイスブレイク・ゲーム（かんたんな手遊びなど）

子どもたちが存分にワークショップを楽しめるよう、かんたんなゲームで心と体をリラックス。

③見本人形のパフォーマンス

「自由に作ろう」と言われても意外と難しいもので、どうすればいいか分からなくなってしまうこともあります。いろいろな形の「あやかし人形」が実際に動いている姿をみてもらい、子どもたちの想像力をサポートします。

④人形を作ってみよう（ここからはグループワークです）

材料は新聞紙、リボン、端切れ……なんの変哲もない素材たちが、みるみる面白い形になっていきます。大きくても小さくても、どんな見た目でもだいじょうぶ。世界にひとつ、自分だけの「あやかし」をつくりましょう。



子供たちが実際につくった「あやかし人形」

⑤人形を動かしてみよう

この「あやかし」はどんな動きをするんだろう。歩くのか、泳ぐのか、あるいはじっとしているのが得意な「あやかし」もいるかもしれません。どんな動かし方がよいか、講師も一緒に考えます。あやかしはしゃべりませんが、「うごき」で気持ちも伝えられるでしょうか。

⑥発表の練習をしよう

自分のつくったあやかしを、みんなに披露する練習です。立ち位置や順番の確認をします。

体制

主指導者1名、補助者5名、手話通訳者2名の8名体制で行います。

主指導者が主に作品の概要や「あやかし」の作り方・遣い方を説明し、それを踏まえてワークショップに取り組む子ども達のがのびのびと製作・操演できるよう、補助者がサポートします。

目的とする効果

本公演中に登場する「あやかし」である河童の人形は、石や枝を組み合わせたような造形をしています。きっと昔の人たちは、生活を取りまく自然界の複雑な形のなかに「あやかし」の姿を想像したのでしょう。

ふとした瞬間に野山の石や枝、流れる雲の形が生き物に見えるように、形のはっきりしない素材を触っているうちに、それらが息づいて見えてくることがあります。このワークショップでは、ものに命が宿るという感覚を子どもたち自らが体験することで、人形劇の表現に親しむと同時に、作品世界への理解を深めることができます。また、劇中で子どもたちが手作りの「あやかし」を持って登場することで、操演する子どもたち、それを見ている子どもたち双方にとって、作品世界がより身近なものとして体感されます。

企画全体について

当ユニバーサル公演事業を実施されるにあたり重点を置くポイントや工夫、対応について御入力ください。

企画のねらい

デフ・パペットシアター・ひとみでは、ろう者と聴者が一緒に人形劇を創作・上演しています。申請作品「河の童」は音声言語、手話言語の使用を最小限に抑えた演出により、耳の聞こえや学習レベルの差を問わず、多様な特性を持つ子どもたちが直感的に楽しむことができます。一方で、河童と人間とのドラマを通じ、自分ではない誰かと共に生きてゆくことについて思いを寄せられる作品でもあります。鑑賞後、劇中の出来事について子どもたちが意見を出しあい、お互いが見たもの、考えたことを共有することで、より深い学びに繋がります。

特別支援学校等での実施における工夫等

申請作品では可能な限り、多様な子どもたちが同じだけの情報を受け取れるように工夫されています。せりふをほとんど使わない演出は、耳の聞こえや学習レベルの差を問わず、多様な特性を持つ子どもたちが直感的に楽しむことができます。

また、作品世界に親しむための事前ワークショップでは、ひとつの完成形を提示するのではなく、子どもたちそれぞれの自由な造形、操演を可能にします。これにより「出来が良い／悪い」「うまい／へた」といった見方にとらわれず、子どもたちがのびのびとワークショップに取り組みことができます。

また、各校ごとに事前のヒアリングを重ね、どういった障害を持つ子どもがいるかを把握したうえで、ワークショップの進め方、劇中に登場してもらう方法、観劇時の環境づくりなどについて十分な配慮をします。

取り組み②で応募する場合、特に重点的に取り組んできた課題（障がいの種類等）

音声のせりふと手話を併用したり、音楽の雰囲気や伝えられる舞台上の生演奏を取り入れたりすることで、耳の聞こえを問わず楽しめる作品です。また、創作のすべての段階でろう者が関わり、その視覚的な感性から生みだされる身体表現や人形表現を大切にしながら創作された作品は、聴覚障害に限らず、様々な障害や世代をこえて受け取ることのできる普遍的な表現として親しまれています。

協力・連携機関及び団体内における専門員の配置等

公演実施団体の中には特別支援学校での上演・ワークショップ経験の豊かな劇団員が複数在籍しています。聴者の劇団員の多くは手話を用いたコミュニケーションが可能であるのに加えて、専門の手話通訳者を配置することで、ろう者⇄聴者相互のコミュニケーションをより活発にします。また、各学校の先生方との情報共有を密に行い、実際にごのような子どもたちが居るのか、細やかに把握し柔軟に対応します。

人形劇

河の童

デフ・パペットシアター・ひとみ
第14回全国公演作品

かわのわっぱ

脚本・演出

立山ひろみ

原作 火野葦平「河童曼陀羅」 国書刊行会

人形美術 本川東洋子 舞台美術・衣装デザイン 大島広子

作曲 佐藤望 振付 向雲太郎

この世界は、あなたには
どう見えていますか？



ろう者と聴者が共につくる
デフ・パペットシアター・ひとみ
DEAF PUPPET THEATER HITOMI

【令和7年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業－ユニバーサル公演－実施条件等確認書(No.1)】

ID*	UNI7_09	企画名	ろう者と聴者の人形劇「河の童-かわのわっぱ-」		
制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター		公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ	

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等					応相談		
控室について	必要数*	1室	条件	昼食・着替えのため。可能なら。		可		
前日仕込みについて*	あり	補足	可能なら。		可			
搬入について	来校する車両の大きさと台数*		4tトラック	1台	バン	1台	可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細		学校の立地条件や前後旅程に鑑みます。					
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ		8.8m				可	
	搬入車両の横づけの要否*		要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離*		30m以内				可	
	搬入経路の最低条件		雨を避けられること				不可	
	理由		演具の水濡れ防止のため					
	設置階の制限*		エレベーターのない場合は2階まで				可	
	搬入間口について 単位：メートル	幅	1m	高さ	1.8m	不可		
会場設営について	舞台設置場所*		フロア			不可		
	舞台設置に必要な広さ 単位：メートル	幅	16m	奥行	7m	高さ	3.7m	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保*		不要			可	
		舞台袖スペースの条件*					可	
		緞帳*	不要	バトン*	不要	可		
	遮光(暗幕等)の要否*		要	理由	可能なら。照明効果のため。		可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*		不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。		可	
		ピアノの事前調律*		不要			可	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況*		舞台設置エリアに下りていないこと			不可	
	公演に必要な電源容量		35A	※主幹電源の必要容量			不可	
	その他特記事項					応相談		

②会場図面(表記単位：メートル)

搬入間口について	幅	1	高さ	1.8
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		30m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



